

令和2年度 永幸福社会事業報告

令和2年度は、新型コロナ感染対策を最重要課題とし、法人全体での対策と対応が不可欠となりました。入所者様に関しては、通常の健康管理以上の検温やバイタル測定回数を増やすなど、全身状態の管理に努めながらも、今まで以上の緊張感を持って異変への早期発見と対応に勤めました。

また、令和2年7月豪雨で被災されました「特別養護老人ホーム五松園」様の入所者様2名を緊急避難として7月13日から8月24日の1ヶ月程、受け入れ対応しております。

急変者の緊急搬送時には、主症状の他に発熱もあればコロナ感染も危惧され、なかなか受け入れ先が見つからず、救急車が苑から動けないといった事例もありません。

入所者様やそのご家族様にとっても悩ましい一年となりましたが、1階フロアのガラス越しで面会を実施してきました。声だけでなく、直接顔を見ることができて、ご家族様からは安心のお声を頂いております。しかし、看取り期を迎えられた方々は、最期をご家族と共に過ごす事は出来ず、苑の玄関先で対面となり当苑としては心苦しく思うばかりでした。特に介護現場では、24時間の業務体系で職員に体調不良や微熱があれば自宅待機を余儀なくされ、人員不足と更に拍車がかかり、今までにない苦悩とスタッフの超過労働に直面する状況となりました。職員一同が互いに助け合いながら尽力しており、職員のメンタルヘルスを考慮しつつ対応してきました。

1、ケアサービス

(1) ご利用者様の権利擁護を尊重し安心感・安全感・満足感の向上

全てのケアの基本的な考えは、その人に合った、いわゆる個別ケアが原則で、特にここ数年は入所者様の介護度・医療依存度の増加が著明となっております。

『看取り介護』を同時に4名抱えるのは、開設以来の経験でもありましたが、大きなトラブルもなく最後までケアをさせて頂きました。

(2) 食事の形態を「ミキサー食」から「ゼリー食」へ提供可能

嚥下力の落ちた入所者様がより安全に、そして見栄えもミキサー食より楽しく食べて頂ける様、以前より検討していた「ゼリー食」の提供を可能としました。管理栄養士をはじめ、多職種が一丸となり試作段階から完成に至り、このゼリー食の取り入れは今後、風の木苑にとってなくてはならないものになると思われます。

(3) リスクマネジメントの活動強化

委員会（全職種参加）やヒヤリハット活動も継続しておりますが、防げるはずの事故も少なくはありませんでした。大きな事故に繋がるかもしれないヒヤリハット、更にその前段階の気付きの発見に重きを置き、意識を高めました。

(4) 防災対策の活動

前年同様2回以上の防災訓練と緊急時連絡網の訓練活動を実施しました。今後の災害対策の一環としてBCP計画の見直しを都度図って参ります。

2、財務運営

	入 所	短 期	通 所	居 宅
目標延べ人数	10,162	916	4,100	615
実績延べ人数	9,867	530	3,854	553
稼働率 (%)	93.2	28.9	69.1	89.9

※入所：退所者数8名（看取り4名）・新規入所者数5名

入所者、待機者の介護度・医療依存度の増強に伴い、当苑でも対応できる受け皿の拡大を狙いとした「メディカルユニット」の確立で口からの食事が困難な方への経管栄養の対応や喀痰吸引が必要な方への医療的対応の強化を図りました。

喀痰吸引に関しては、今後もニーズは増える為、介護職員における喀痰吸引研修で助成金制度を活用しオンライン研修を3名実施しています。

3、人材確保と職員の定着、教育

求人活動につきましては、職員紹介、ハローワークや求職セミナーのブース出展と風の木苑のホームページや求人サイトの活用で入所は4名が入職しましたが、残念ながら本人の体力と家庭面との両立が難しく、内3名は試用期間内で退職となりました。

また、勤務年数の長い職員の離職が続いた年でもあり入所に関しては、定年を前に体調不良の為、退職せざるを得ない1名で、通所については職員の半数以上が入れ替わる事となりました。離職率低下に繋げる為にも求人票の見直しや、処遇改善加算ⅡからⅠの算定を試み、職務内容に応じた賃金体系を設けモチベーション向上に努める次第です。育成に関しても、OJT制度・定期的な人事考課と面談を実施し、職員の職位に応じたステップアップを図って参ります。また、既存のスタッフを大事に教育し、そこにやりがいと働きがいを持ってもらう事が、何より人材の定着に結び付き、延いては入居者様への質の高いケアに繋がると信じ今後も取り組んで参りたいと考えます。